

第三部
愛媛県周桑郡丹原町

墓地（無縁墳墓）に関する意識調査

独立行政法人 日本学術振興会科学研究補助金 報告書

研究年度 平成13年度～平成15年度

研究課題 少子高齢社会における墓地及び墳墓承継に関する法社会学的研究

課題番号 13620014

所属 茨城キリスト教大学文学部文化交流学科
研究代表者 森 謙二 研究者番号 90113282

1 調査方法

本調査は、愛媛県周桑郡丹原町で行った調査をまとめたものである。調査方法は、小松町の清楽寺大久保壮聡ご住職の協力を得て、丹原町の老人連合会に委託をして行ったものである。アンケート調査は次のような方法を用いた。

①調査地区

愛媛県周桑郡丹原町

大字	回答者(人)	構成比
丹原	32	21.2
徳田	30	19.9
田野	44	29.1
中川	25	16.6
桜樹	20	13.2
合計	151	100.0

丹原町を構成する5つの大字から全体で151人からアンケートを回収した。

②アンケートの配布・回収は老人連合会に委託をした。アンケートの配布は、老人会に加入するメンバーが多かったので、調査対象者もまた高齢者が多かった。フェースシートの集計で詳細な年齢分布を示しておいたが、70歳以上の回答者が71.6%を占めている。

③調査方法は、訪問留置法である。

④調査票を配布するとき、以下の文書を添付した。

⑤調査期間 平成15年10月から平成16年1月までの間

平成15年11月吉日

愛媛県周桑郡の皆様へ

森 謙二
茨城キリスト教大学教授

ご依頼

秋冷の候、皆様にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度はお忙しいなかアンケート調査にご協力をいただき、誠にありがとうございます。今回のアンケート調査は、平成15年度の日本学術振興会科学研究補助金(研究代表者 森謙二)の援助を得て、学術研究を目的として実施するものです。近年、少子化や非婚化の流れの中でお墓のアツギのなくなった「無縁墳墓」が増加する傾向にあります。また、お墓をめぐる意識も大きな変化の中にあり、散骨や合葬式共同墓などの新しい葬送のスタイルも登場するようになってきました。このような状況を背景として、お墓をめぐる意識の変化についてのアンケート調査の実施を計画した次第です。同種のアンケート調査は、三重県志摩郡大王町及び新潟県岩船郡関川村で実施しているものであり、愛媛県周桑郡で3ヵ所目の調査になります。

調査地として愛媛県周桑郡を選んだ理由は、平成10年度の厚生省特別研究事業として実施いたしました「墓地をめぐる意識調査」(主任研究者 森謙二)においてこの地域が特徴ある傾向を示したことによるのですが、ここでその詳細な理由について述べることは調査結果に予断を与えることになりますので、これ以上の言及は差し控えたいと思います。

この調査は学術研究を目的としたものであり、調査結果につきましては個人のお名前が外にできることはありません。また、調査結果が学術研究以外の目的に使われることもございませんので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

なお、調査の実施に際しまして、小松町の清楽寺 大久保壮聡ご住職のご協力を得て、実施させていただきます。お忙しい中誠に恐縮ではありますが、何とぞよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

この調査に関しましてご不明のことがございましたら、下記宛までご連絡を賜れば幸いです。
住所 〒319-1295茨城県日立市大みか町6-11-1
茨城キリスト教大学 森謙二研究室
電話 0294-52-3215 (内線408)
直通 0294-53-5864 Fax 0294-53-5964
e-mail k-mori@icc.ac.jp

2 調査地の概況

愛媛県周桑郡丹原町は、愛媛県松山市から東へ約 30 キロ、愛媛県周桑郡小松町と隣接した人口 13,644 人（平成 13 年 10 月 1 日）の町である。瀬戸内海沿岸に面した道前平野の中央



より南西に広がる平野が穏やかに傾斜して山麓に達する、四国、高輪両山脈の一角を占めている。総面積の約 70 パーセントが山林で、平野部は、田、果樹園が広がる中山間地帯です。町の面積は 129.1 平方キロ、農業（現在の特産品としては、あたご柿、アムスメロン、バラ、菊があるが、イグサやみかんやお茶の栽培も盛んであった）を中心とした村である。平成 12 年国勢調査によると、産業別就業者割合

は「1 次 21.2%」「2 次 33.4%」「3 次 45.2%」となっている。

表 1 は、丹原町の人口の変遷を示したものである。昭和 30 年には人口 2 万人近くいたが、高度成長期から現在に至るまで人口減少減の傾向はずっと続いている。その意味では、過疎化が進む地区であり、今回の調査も人口減少がお墓の承継にどのような影響を与えているかが問われることになる。

（表 1）丹原町の人口の変遷

年次	世帯数	人口		
		総数	男	女
S30	3,849	19,746	9,630	10,116
35	3,953	18,479	8,913	9,566
40	3,947	16,734	7,950	8,784
45	3,927	15,334	7,291	8,034
50	4,016	14,965	7,175	7,790
55	4,168	14,919	7,137	7,782
60	4,243	14,769	7,034	7,735
H2	4,354	14,441	6,845	7,596
7	4,512	13,978	6,623	7,355
12	4,716	13,644	6,478	7,163

（表 2）丹原町の人口動態

年次	自然動態			社会動態			増減人口
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	
H元	115	134	△19	406	514	△108	△127
2	97	141	△44	419	500	△81	△125
3	126	152	△26	438	552	△114	△140
4	112	151	△39	443	505	△62	△101
5	104	136	△32	537	466	71	39
6	105	129	△24	442	492	△50	△74
7	98	162	△64	472	469	3	△61
8	87	165	△78	69	461	△392	△470
9	86	152	△66	420	485	△65	△131
10	81	156	△75	463	465	△2	△77
11	101	188	△87	476	493	△17	△104
12	95	148	△53	413	477	△64	△117

丹原町は、明治 23 年の合併によって成立した丹原村（町）・徳田村・田野村・中川村・桜樹村の 5 町村が昭和 30 年から昭和 31 年までに「昭和の大合併」により誕生した町である。町の中心集落の旧丹原村で、中山川上流域の林産物集散地として松山藩が江戸前期に設置した在郷町で、一時期藩の代官所もあったと伝えられている。

3 愛媛県を調査対象として選定した理由

愛媛県での調査を計画した理由は 2 つある。1 つは、平成 10 年の「墓地に関する意識調査」（厚生科学特別研究事業・主任研究員 森謙二）の調査結果を分析する際にきわめて詳細にデータを分析し、一定の地域性を考えるために県あるいは市町村のレベルにまでデータを見るという作業を行った。この時、「あなたの入るお墓の承継者はいますか」という問いに対して愛媛県は 27.3%に達していた。全国の平均値は 10.6%であり、京都府の 28.9%につぐ高い数値であった。この時、なぜ愛媛県がこんな高い数値を示すのか、その特異性が記憶に残っていた。それからしばらくして、愛媛県の旧石鎚山村が消えるという話を聞いた。過疎により人口減少が激しくなり、残された何軒かの家も移転することになったと話であった。過疎が進んだとき、墓地がどのような運命をたどるのか、これも私の問題関心の一つであった。

もう一つは、次のような記事が気にかかっていた。最初は愛媛県の報告であるが、後半は高知県の報告である。

「石鎚山村や西条市新居浜市などでも、墓直しには川原石を拾って来て四辺を縁どり、土盛りを整均して上に、ミヨウドウを置く。周桑郡小松町の墓直しは、日の出前にこのミヨウドウを据え、四隅に紙花を立てることで、これを「死人の屋敷取りをする」というのである。（森正史「愛媛県の葬送・墓制『四国の葬送・墓制』[明玄書房、1979] 103 頁）

「地もらい 墓地をヤマ・ノ・ハマ・ポチバなどといい、穴掘りに先立って土地を地神から貰うジモライがある。安芸郡北川村では「えゝヤマをもうろうて来いよ」という声に送られながら、肉親者や葬式組の者がもらいに行く。適当な埋葬地が見つかり、四隅に柴や寺から請けてきた札を立てて塩を撒き、中央には米・塩・一文銭（現在は一円・五円・十円玉）を投げ「地神さま土地をもらいます」とか「地神さまここへ誰々を埋めさせてください」というように唱えていた。」「長岡郡大豊町上桃原では、六尺四方の四隅へ一文銭を一枚ずつ置き一肉親が「この四方四面は誰々の墓地として買い上げます」と唱えていた。高岡郡仁淀村大植では、糸を通して長さ三尺ぐらいの竹に吊るした一文銭を四隅に立て「地神さん、ここを売ってつかあされ」といって掘り始めていた。」（坂本正夫「高知県の葬送・墓制『四国の葬送墓制』[前掲] 145 頁）

もともと、四国には屋敷墓あるいは屋敷地近くの場所にお墓を設ける慣行が根強く残っている。ムラによれば、共同墓ではなく「個人墓地」にお墓を建てるのが原則であったという地域も多い。「個人墓地」の習俗を含めて考えたとき、四国のこれらの地域にはきわめて古い墓制が残存しているのではないかと思った。というのは、地主様から墓地＝土地を買うというのは中国の古い慣習の中にも、日本の古代の墓をめぐる習俗に中にもあり、中国や日本の古代には地主から土地を買った印として「墓地券」をお墓に納める習俗があったとの報告もある。

後者の問題は、今回の調査のテーマとは直接に結びつく問題ではないが、現代において



写真1 石積みのお墓（丹原町）

「個人墓地」が多いのはこの地域の伝統的な習俗を反映したものであろう。

私も調査の過程で次のような話を聞いた。山の中で墓地をつくるとき、四方に竹でさしてその周囲を縄か紐のようなもので囲い、ここが墓地になるということを周囲の人に知らせるのだという。このことが地主様から土地を買うという習俗と結びつくかどうかははっきりしないし、この詳細なことに関して記憶している人には会うことができなかったが、興味深い事例である。

また、この地域には「ハカナオシ（墓直し）」と称して河原から石を拾って石を積む習俗もある。右の写真も「ハカナオシ」を跡であろう。このように石積みのお墓は、現在のような墓石を建立する以前のお墓の形態ではないのだろうか、と私は想像している。

4 丹原町の墓地事情

丹原町には、集落単位に小さな墓地がたくさんある。役場の集計によると、墓地の数は、集落が管理する墓地（いわゆる「ムラ墓地」）=40 ヵ所、宗教法人が管理する墓地（全てが寺院墓地であるかどうかは明らかではない）=13 ヵ所、「個人墓地」（個人の所有で一般的には屋敷内や田畑の中にある墓地）=11 ヵ所の計 64 ヵ所となっている。墳墓の改葬に関しては、毎年地元から転出する人々を中心に改葬の申し出が 10 件程度の申し出があるという。

恒常的にこの地域からの移住を決めた場合には、地元から遺骨（一般的に火葬骨）を居住地に移すことが多く、移住した家のお墓がすべて無縁墳墓になる訳ではない。過疎化の中

の承継者問題は、その意味では、アトツギが確保できなくなる少子化の中での承継者問題とは異なっている。

表2 墓石が整理された墓所（古田墓地）



左の写真は、丹原町の古田墓地である。この墓地は広隆寺の寺院墓地であると聞いているが、実質的な管理は古田区長が行っている、この墓地の中にはこのように歯が抜けたように、墓石が整理された墓地区画が点在している。移転した人の墓地である。墓石を含めて移転しているのであろう。

しかし、別の話も聞くことができた。先ほど述べたように、旧石鎚山村では集落全体が移転した。どのようにお墓を移転したか、近隣の人から話を聞くことができた。その内容はおおよそ次のようなものであった。この地域は昭和 40 年前後まで土葬を行っていた。したがって、墓地を掘り返して骨を持って行くということは現実的ではないので、移転するときには墓地の土を持っていった。墓石に関してはもっていった人とそうではない人がある。お寺のご住職さんに来てもらって読経をあげて貰い、魂を抜いて貰った人もいる。墓地の改葬の手続きをしたかどうかは明らかでは

地域と同様に「墓地整備」を目的とした無縁改葬公告が増加する傾向にある。

7 アンケート（意識）調査の分析

本調査は、丹原町老人連合会に委嘱したことももあり、回答者の年齢が高く回答者のなかで 70 歳以上が 71.6%を占める結果になった。その意味では、一般的な意識調査とは異なり、高齢者の意識を反映したものと考えた方が良い。

一般的高齢者は、アトツギを確保している場合が多く（全国調査では 76.1%、丹原町では 84.1%）、比較的アトツギが確保できていることもあって、祖先祭祀の意識も安定した回答が多いのが普通である、丹原町もその例外ではなく、丹原町は四国の平均的な傾向を反映しているといえるだろう。

70 歳以上の年齢層のアトツギは、大雑把に言えば、団塊の世代以降であり、アトツギの確保が困難になり、また意識変化が著しいのもこの世代以降のことである。70 歳代以上の世代では、将来に対する漠然とした不安をもちながら、アトツギの確保ができなくなるのは次世代であり、その問題にまでは踏み込んで対応しようとはしない、というのが現状なのであろう。

実際に、アトツギの居住地域を聞いたとき、同居している方は 47.6%にすぎず、アトツギが県外に居住すると回答した人が 18.4%に達している。また、ちょうど団塊の世代の子ども達から少子化が本格化するのであり、この世代からよりアトツギ問題が深刻化することになる。

世代間の問題を別の角度から敷衍しておくと、被調査者の兄弟姉妹の数は 4 人以上 55 %を超えるのに対し、被調査者の生んだ子どもの数は 2～3 人がもっとも多く (74.2%)、4 人以上は 13%に過ぎない。被調査者の生んだ子どもの世代を団塊の世代とすれば、合計特殊出生率が 2.0 を切るようになり、生涯未婚率も男子の場合は 10%を超えるようになっていく。

もっとも、過疎化地域の墓地問題として深刻であるのは、流出した人々の墓地がどうなっているかが問われることになる。アトツギがいないお墓があるかという問いでは約 65%があると答えているが、流出してのその承継者が管理している 25.6%、親戚のものが管理が管理している 33.0 %となっている。「特に管理していない」14.9%はであり、全体で占める割合は高いものではない。この問題に関しても、流出した人とその家族の結びつきが維持され、または親類同士のつきあいが維持され、あるいは何となくムラで管理するなど問題はそれほど深刻化していないと言えるであろう。

しかし、この問題も、家族や親族と繋がりが希薄になってきたときにどのように変化するかは予断を許さない。墓地の承継問題は、現状においては深刻な問題になっていないが、なお将来に大きな課題を抱えたまま、というのが今回の意識調査からの結論ということになるだろう。

問1 あなたは、将来自分自身が入る予定のお墓をお持ちですか、お持ちではありませんか。
次の中から当てはまるものをいくつでもお選びください。

- 1 自分の親から受け継いだ（予定も含む）お墓がある
- 2 配偶者の親から受け継いだ（予定も含む）お墓がある
- 3 自分または配偶者が取得したお墓がある
- 4 お墓を持っていないので、現在捜している
- 5 お墓を持っていないが、捜していない
- 6 その他（ ）

今回の調査では、96%（「墓地を持っていない」=2.7%+1.3%=4%を引いた数値）の人が自分の入るお墓をすでに持ってるという結果が出た。この調査の回答者の約70%が70歳を超えている。平成10・15年度の全国調査でも、70歳以上の人々（108人）の9割が自分の入るお墓をすでに取得しているので、これでも特別に高い数字とは言えない。

しかし、この70歳を超える世代の人々のうち、親から受け継いだ先祖伝来の墓に入る人は6割強の人々であり、39.8%（108人中43人）の人々が「自分または配偶者がお墓を取得した」というのは全国平均から比べてみても若干高い数値を示している（平成10年=23.6%、平成15年=33.5%）。

Q1 自分が入る予定のお墓をお持ちですか

お墓の有無	実数	構成比(%)
自分の親から承継	89	59.3
配偶者が親から承継	25	16.7
自分または配偶者が取得	54	35.8
墓を持っていない(探している)	4	2.7
墓を持っていない(探していない)	2	1.3
Total responses	174	116

表 Q1-2 は、「自分または配偶者が取得した墓がある」と回答した人を年齢別の割合を示したものである。60歳未満では「自分たちでお墓を取得」した人はいない。60歳未満で調査対象になった人は11名であり、このうち Q1-2

自分または配偶者が取得した墓がある

8名までが親あるいは配偶者から

	年齢	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80-89歳	無回答	合計
いいえ	実数	7	4	12	43	22	9	97
	構成比	100.0	100.0	75.0	55.8	71.0	56.3	64.2
はい	実数	0	0	4	34	9	7	54
	構成比	0.00	0.00	25.0	44.2	29.0	43.8	35.8

お墓をが、承継していると回答しているので、60歳未満の人々のうち

お墓を持っていないのは3名ということになる(27.3%)。

また、「自分の親から承継した」「配偶者が親から承継した」の双方を多重に選択したものが12名あり（全体の8.0%）、またこの中で8名の人が「自分または配偶者がお墓を取得した」を多重に選択している。平成15年調査では、調査対象1,409人中27名（1.9%）が「自分の親から承継した」「配偶者が親から承継した」の双方を多重に選択したのに比べると4倍以上の割合を示している。過疎化の中で、配偶者の実家の墓を承継するケースも増えているのではないかと思われ、今後のあり方に注目をしたい。

SQ1-1 そのような先祖伝来のお墓はどこにありますか。次の中から 1 つだけお選びください。

- 1 現在自分が居住する地域に隣接した場所にある
- 2 自分が居住する地域には隣接していないが、同一あるいは隣接した都道府県にある
- 3 遠く離れた場所にある
- 4 その他 ()

SQ1-2 あなたは先祖伝来のお墓に入る予定ですか。次の中から 1 つだけお選びください。

- 1 入る予定である
- 2 私は入るつもりであるが、配偶者は難色を示している
- 3 先祖伝来のお墓はあるが、それとは別のお墓に入る予定である
- 4 先祖伝来のお墓を利用するか、新たにお墓を購求するか、思案中である
- 5 将来の問題なので、今は考えていない
- 6 その他 ()

Q1-3 親から引き継いだお墓はどこにありますか

引き継いだお墓はどこにあるか	実数	構成比(%)
居住する地域	95	93.1
同一・隣接した都道府県	3	2.9
遠く離れた場所	1	1.0
無回答	3	2.9
合計	102	100.0

表 Q1-3 と表 Q1-4 は「自分の親から承継した」「配偶者が親から承継した」を回答した者 102 人（多重の回答をした人を除く）を対象に尋ねたものである。親から引き継いだお墓は現在居住する地域にあると回答した人が 90%を超えている。

Q1-4 親から引き継いだお墓に入りますか

親から引き継いだお墓に入るか	実数	構成比(%)
入る予定	92	90.2
配偶者が難色	3	2.9
親とは別の墓に入る予定	3	2.9
思案中	1	1.0
無回答	3	2.9
合計	102	100.0

フェイスシートでの質問の中で、「生まれた場所」と現在の居住する地域が一致しているかどうかを尋ねる質問があるが、一致すると回答した人が 72.2%、また 8 割以上の人が 10 年以上にわたって現在の居住する地域を離れたことがないと回答している。その意味では、調査対象となった人々の移動性は低い。したがって、93.1%の人が親

（あるいは配偶者）のお墓を引き継いだ同一地域で居住している。ただ、その親から引き継いだお墓に入るかどうかになると若干ではあるがその数が減ることになる。つまり、「配偶者が難色を示している」「親とは別のお墓に入る」と回答した人が、それぞれ 3 人（2.9%）いる。平成 15 年度調査では、「親から引き継いだお墓に入る」と回答した人が 74.1%と親から引き継いだお墓に入ることに戸惑いを感じている人が約 25%もいて、祭祀承継システムの動揺が見られたが、丹原地域では必ずしもそうではない。しかし、「配偶者が難色を示している」が 1.4%、「親とは別のお墓に入る」2.9%であり、数字上の大きな差異はなく、その変化の兆しも読み取ることができる。

参考1-1 自分が入るお墓の有無

お墓の有無(複数回答)	実数	構成比(1)	構成比(2)
親から承継	536	38.0%	38.3%
配偶者が親から承継	274	19.4%	19.6%
自分・配偶者が取得	203	14.4%	14.5%
墓を持っていない(探している)	22	1.6%	1.6%
墓を持っていない(探していない)	396	28.1%	28.3%
その他	17	1.2%	1.2%
無回答	10	0.7%	--
合計	1409(1458)	103.5%	103.5%

参考1-2 親から受け継いだお墓がどこにあるか

親から承継した墓がどこにあるか	実数	構成比(1)	構成比(2)
居住する地域	473	60.4%	61.0%
同一・隣接した都道府県	187	23.9%	24.1%
遠く離れた場所	113	14.4%	14.6%
その他	3	0.4%	0.4%
無回答	7	0.9%	--
合計	*3 783	100%	100%

*3 親からお墓を承継したのは Q2-1 の A1+A2=810 人である。この中で 27 人が自己と配偶者の親の双方からお墓を承継しており、その重複を除くと 810-27=783 人となる。

参考1-3 あなたは親から承継したお墓に入りますか (Q2SQ2)

(参考 1-3 の表について)

親から承継した墓に入るか	実数	構成比(1)	構成比(2)
入る予定	580	74.1%	74.8%
配偶者が難色	11	1.4%	1.4%
親とは別の墓に入る予定	20	2.6%	2.6%
思案中	33	4.2%	4.3%
将来の問題で考えていない	127	16.2%	16.4%
その他	4	0.5%	0.5%
無回答	8	1.0%	--
合計	783	100.0%	100.0%

親から承継した墓に入るかどうかについて「思案中」4.2%、「将来の問題で考えていない」16.2%と20%強の人々の態度は未定である。親と一緒に墓に入らないとする人も出てきている。「親とは別の墓に入る」と回答した人が2.6%、「親と一緒に墓に入ることに配偶者が難色を示している」と回答した人が1.4%いる。

先ほど述べたように、この合計値は25%を超えることになり、現代のお墓の承継システムの不安定さを示す一つと言えるだろう。

問2 将来あなたが入る予定のお墓を継いでくれる人がいますか、いませんか。次の中から1つだけお選びください。

- 1 決まった人がいる
- 2 期待している人はいるが決まっていない
- 3 決まった人も期待する人もいない
- 4 お墓を継いでもらうことを希望しない

Q2 あなたが入るお墓の承継者がいますか

あなたが入るお墓の承継者	実数	構成比(%)
決まった人がいる	127	84.1
期待する人がいるが決まっていない	18	11.9
決まった人も期待する人もいない	1	0.7
墓を継いでもらうことを希望しない	3	2.0
無回答	2	1.3
合計	151	100.0

お墓の承継者については、「決まった人がいる」と回答した人が84.1%いる。全国平均は41.9%であり、全国の60歳以上の人々の平均値でも68.3%であるから丹原町の数字は格段に高い数値を示しているように思う。しかし、この数

値も詳細に検討してみると、これからの変化の兆しを読み取ることができる。まず、お墓の承継者（祭祀の承継者）として予定している人々は、依然として長男(70.1%)・長男以外の男子(5.4%)・婿養子(4.1%)が依然として高い数値をしめしているが、配偶者が7.5%、長女(9.5%)・長女以外の女子(2.0%)のように、約20%の人々が男子以外の人々を祭祀承継者としてあげたこと、またわずか2%ではあるが「墓を継いでもらうことを希望しない」としてお墓の祭祀承継を拒絶する人々が現れていることにも注目をしておきたい。もっともお墓の承継を拒絶するこの数値は、平成15年の全国平均では7.7%であり、四国の平均8.9%に比べても低い数値をしめしており、必ずしもこの地域で高い数値を占めている訳ではないが、変化の兆しの一つとして考えることはできるだろう。また、

【問2で「決まった人がいる」「期待する人がいる」と回答された方に】

SQ2-1 その人との関係を教えてください。次の中から1つだけお選びください。

- | | |
|-----------|---------------|
| 1 配偶者 | 6 養子（婿養子も含む） |
| 2 長男 | 7 兄弟姉妹 |
| 3 長男以外の男子 | 8 1～7以外の親族 |
| 4 長女 | 9 親しい人（友人、仲間） |
| 5 長女以外の女子 | 10 その他（ ） |

SQ2-2 その方は現在どこに住んでいらっしゃいますか。次の中から1つだけお選びください。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1 同居している | 2 同じムラ（集落）のなかにいる |
| 3 丹原町内に住んでいる | 4 愛媛県内に住んでいる |
| 5 県外に住んでいる | 6 日本にはいない |
| 7 その他（具体的に： ） | |

Q2-1 承継者との続柄（関係）

続柄	構成比(%)
配偶者	7.5
長男	70.1
長男以外の男子	5.4
長女	9.5
長女以外の女子	2.0
養子(婿養子を含む)	4.1
兄弟姉妹	0.7
無回答	0.7
合計	100.0

そのなかで大きな変化が生まれてきているのは、祭祀承継者（俗に言う「アツギ」）が被相続人である父母と同居している割合が大きく変化していることであろう。承継者の同居の割合が 50%を割り込んで 47.6%、同じ集落に住む(6.1%)を加えても 53.7%に過ぎない。

承継者が県外に住む人は 18.4%であり、愛媛県内に住む人が 18.4%である。承継者として配偶者や婿養子を挙げた人々は承継者のほとんどが同居しあるいは同じ集落に居住しているのに対し、長男以外の男子や長女・長女以外の女子を挙げた人々の同居する割合は低い。

Q2-2 承継者の居住地域

承継者の居住地域	構成比(%)
同居している	47.6
同じムラの中にいる	6.1
町内に住んでいる	10.2
愛媛県内にいる	17.0
県外に住んでいる	18.4
無回答	0.7
合計	100.0

特に女子を承継者と考えている場合、県外や町内以外の県内に住んでいるケースが多く、この回答例から考えても結婚などの理由により通勤圏外あるいは遠くに出ているケースが多い。

このような結果から見ると、承継者がいると回答する人々が多かったが、現実これから地元に残り、先祖代々の祭祀を承継するアツギの確保が困難になっている、あるいはきわめて不安定な状態になってきていることはこの数値のなかに読み取ることができる。

Q2-3 承継者の続柄と居住地域のクロス集計

上段-実数 下段-構成比(%)

続柄	同居	集落内	町内	県内	県外	無回答	合計
配偶者	11 100.0	0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0 0	11 100.0
長男	48 46.6	7 6.8	12.0 11.7	17.0 16.5	19.0 18.4	0 0.0	103 100.0
長男以外の男子	3 37.5	0 0	2.0 25.0	1.0 12.5	2.0 25.0	0 0	8 100
長女	4 28.6	0 0.0	1.0 7.1	5.0 35.7	4.0 28.6	0 0.0	14 100.0
長女以外の女子	0 0.0	0 0.0	0.0 0.0	1.0 33.3	2.0 66.7	0 0.0	3 100
養子(婿養子を含む)	4 66.7	2 33.3	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0 0.0	6 100.0
兄弟姉妹	0 0.0	0 0.0	0.0 0.0	1.0 100.0	0.0 0.0	0 0.0	1 100
無回答	0 0.0	0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	1 100.0	1 100.0
合計	70 47.6	9 6.1	15.0 10.2	25.0 17.0	27.0 18.4	1 0.7	147 100.0

参考2-1 あなたのお墓を継いでくれる人がいますか

平成10年は構成比(%)

あなたのお墓を継いでくれる人	実数	構成比(1)	構成比(2)	平成10 年
決まった人がいる	590	41.9%	42.4%	51.2%
期待する人がいるが決まっていない	414	29.4%	29.7%	23.5%
決まった人も期待する人もいない	280	19.9%	20.1%	10.6%
墓を継いでもらうことを希望しない	108	7.7%	7.7%	3.1%
無回答 平成10年 = わからない	17	1.2%	--	11.6%
合計	1409	100%	100%	100%

参考2-2 あなたのお墓を継いでくれる人はいますか(年齢×性別)

数字は構成比(%)

あなたのお墓の承継者		20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-70歳	70歳以上	男・計	女・計
決まった人がいる	平成15	12.7%	25.0%	30.9%	46.4%	68.3%	76.1%	40.4%	43.3%
	平成10	8.3%	29.8%	47.0%	60.4%	73.6%	81.7%	48.9%	53.3%
期待する人がいる が決まっていない	平成15	19.3%	33.3%	45.9%	32.5%	21.1%	15.9%	28.5%	30.2%
	平成10	17.1%	36.1%	31.6%	24.6%	13.5%	14.1%	22.0%	24.8%
決まった人も期待 する人もいない	平成15	52.4%	32.1%	13.3%	11.4%	6.4%	5.7%	22.8%	17.1%
	平成10	23.8%	15.7%	10.5%	6.0%	7.4%	2.1%	13.9%	7.6%
墓を継いでもらうこ とを希望しない	平成15	11.3%	8.8%	9.4%	8.3%	3.9%	2.3%	7.6%	7.8%
	平成10	5.2%	6.7%	3.3%	2.1%	1.4%	0%	3.2%	3.0%
無回答 わから ない	平成15	4.2%	0.8%	0.4%	1.4%	0.2%	0%	0.7%	1.7%
	平成10	45.6%	11.8%	7.6%	7.0%	4.1%	2.1%	11.9%	11.3%
合計		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

問3 あなたは、先祖の墓を守り供養することは子孫の義務と考えますか。この中ではどうでしょうか。

- | | |
|------------------|----------|
| 1 そう思う | 4 そう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う | 5 わからない |
| 3 どちらかといえばそう思わない | |

Q3は、「先祖の墓を守り供養することは子孫の義務と考えますか」という質問で祖先祭祀についての意識を尋ねたものである。全国との比較では、「そう思う」と回答した人の割合は高い。全国との比較で言えば、平成15年の70歳以上の人が「そう思う」と答えたのが70.1%であるのに対し、丹原町では、85.4%の方が「そう思う」と回答している。「どちらかといえばそう思う」を含めると実に98.0%の高い割合を示している。

ちなみに、平成15年の全国調査から「四国」だけを取り出すと、「そう思う」=55.6%。「どちらかといえばそう思う」=42.2%、「そう思わない」=2.2%（対象となった人数は45人）であり、70歳以上に限定すると、対象となる人数が9人で、「そう思う」8人・「どちらかといえばそう思う」1人であるから、丹原町の数字が四国の平均と比べて見ると、特に高いという訳ではない。

しかし、他の地域と同様に、若い世代では祖先祭祀に関する意識は変貌している。20歳代の若い世代では「そう思う」=20%「どちらかといえばそう思う」=80%であり、「そう思う」と回答する人の割合は70歳代に比べてかなり低くなっている。ただ、四国では20歳代でも「そう思わない」「必ずしもそう思わない」という否定的な回答した人はいない。

Q3 先祖の墓を守るのは子孫の義務か？（丹原町）

先祖の墓を守るのは子孫の義務か？	実数	構成比
そう思う	129	85.4
どちらかといえばそう思う	19	12.6
どちらかといえばそう思わない	3	2.0
そう思わない	0	0.0
合 計	151	100.0

Q3-2 年齢別の祖先祭祀についての意識(全国調査平成15年)

祖先の祭祀は子孫の義務か	平成15 平成10	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上	男・計	女・計
そう思う	平成15 平成10	25.0 50.8	32.9 49.0	45.1 57.2	48.4 65.3	60.5 75.0	70.1 82.2	47.2 62.3	45.8 63.9
どちらかといえば そう思う	平成15 平成10	52.8 32.1	50.8 37.6	42.5 27.0	41.2 27.4	29.7 19.3	-- 11.1	39.2 26.1	43.1 26.0
どちらかといえば そう思わない	平成15 平成10	10.8 3.6	7.9 7.5	6.0 9.5	4.8 1.1	2.8 2.4	-- 1.6	6.0 3.8	5.7 5.1
そう思わない	平成15 平成10	10.4 10.4	7.9 5.1	6.4 4.6	5.5 4.2	3.0 2.4	-- 3.1	7.0 6.0	5.1 3.6
無回答・わからない	平成15 平成10	0.9 3.1	0.4 0.8	0.0 1.6	0.0 2.1	0.7 1.0	-- 1.6	0.6 1.8	0.3 1.5

[illegible]

四国との比較で言えば、ほぼ丹原町と同じような傾向が見られるが、四国の 70 歳以上では「週に 1 ～ 2 回」(14.3%)「月に 1 ～ 2 回」(57.1%)、「年に 3 ～ 4 回」(14.3%)であるから、丹原町の方が墓参りの頻度が若干低いことになる。

度数	実数	構成比(1)
ほぼ毎日	4	2.6
週に1～2回	13	8.6
月に1～2回	55	36.4
年に3～5回	68	45.0
年に1～2回	11	7.3
合計	151	100.0

お墓参りに頻度	実数	構成比(1)	構成比(2)	平成 10 年	平成2年*4
ほぼ毎日	9	0.6	0.6	0.5	0.4
週に1～2回	13	0.9	0.9	1.6	1.1
月に1～2回	168	11.9	12.0	12.5	7.9
年に3～5回	437	31.0	31.2	35.4	31.7
年に1～2回	549	39.0	39.2	36.6	42.7
ほとんど行かない	218	15.5	15.6	12.9	15.2
その他	7	0.5	0.5	0.3	0.4
無回答	8	0.6	--	0.2	0.6
合計	1409	100.0	100.0	100.0	100.0

*4 平成2年は総理府による調査

四 国	ほぼ毎日	週に1～2回	月に1～2回	年に3～5回	年に1～2回	行かない	その他	合計
全 体	2.2%	4.4%	22.2%	42.2%	24.4%	4.4%	0.0%	45人
70歳以上	0.0%	14.3%	57.1%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	9人

問5 あなたにとって「先祖」という場合、次の方は「先祖」に含まれますか。各問についてもっとも近いものを1つだけお選びください。

問5-1 母が嫁入りをしてきたとき、母方の父母や祖父母

1 含む 2 含まない 3 わからない

問5-2 自分の本家の先祖

1 含む 2 含まない 3 わからない

問5-3 自分の分家の先祖

1 含む 2 含まない 3 わからない

Q5は、親族についての考え方（意識）について尋ねたものである。「本家」の先祖を自分の先祖として考えるかという質問について 48.3%（「わからない」「無回答」を除くと 84.9%）の人が肯定的に捉えている。「分家」について「含む」「含まない」が拮抗している。また、自分の母方の父母や祖父母を先祖として考えるかという質問については 34.2%（「わからない」「無回答」を除くと 61.4%）と回答しており、母方の親族も「先祖」として捉えている人も多い。

この質問は全国調査では比較するものがないので、新潟県・奈良県のデータと比較しておこう。本家の先祖を自分の先祖とする意識は他の地域に比べて強いが、母方の父母や祖父母を自分の先祖ととして考えるのは、新潟県では少なく、丹原町の傾向は奈良県都祁村の傾向とほぼ一致している。

Q5-2 本家の先祖／分家の先祖／ 母方の父母や祖父母は「先祖」ですか？

愛媛県 丹原町	本家の先祖	有効パーセント	分家の先祖	有効パーセント	母方の父母 や祖父母	有効パーセント
含む	73	48.3(78.4)%	26	17.2(40.0)%	51	34.2(52.0)%
含まない	13	8.6(14.0)%	25	16.6(38.5)%	32	21.5(32.6)%
わからない	7	4.6(7.5)%	14	9.3(21.5)%	15	10.1(15.4)%
無回答	58	38.4(—)%	86	57.0(—)%	53	34.2(—)%
合計	151	100.0%	151	100.0%	151	100.0%

参考5-1 本家の先祖／分家の先祖／母方の父母や祖父母は「先祖」ですか(新潟県岩船郡関川村)

新潟県 関川村	本家の先祖	有効パーセント	分家の先祖	有効パーセント	母方の父母 や祖父母	有効パーセント
含む	29	46.0%	21	33.3%	24	38.1%
含まない	25	39.7%	26	41.3%	30	47.6%
わからない	9	14.3%	16	25.4%	9	14.3%
無回答	—	—	—	—	—	—
合計	151	100.0%	151	100.0%	151	100.0%

参考5-2 本家の先祖／母方の父母や祖父母は「先祖」ですか(奈良県山辺郡都祁村針)

新潟県 関川村	本家の先祖	有効パーセント	母方の父母 や祖父母	有効パーセント
含む	39	47.0%	44	53.0%
含まない	29	34.8%	30	36.2%
わからない	15	18.1%	9	10.8%
無回答	—	—	—	—
合計	83	100.0%	83	100.0%

問6 あなたは死後の靈魂の存在を信じますか、信じませんか。次の中から1つお選びください。

- 1 信じる 2 信じるというほどではないが、ありうと思う
3 信じない 4 わからない

Q6 死後の靈魂を信じますか

死後の靈魂	実数	構成比
信じる	57	37.7
ありうと思う	60	39.7
信じない	13	8.6
わからない	19	12.6
無回答	2	1.3
合計	151	100.0

Q6は、靈魂觀の調査である。この調査では、丹原町の「信じる」(37.7%)「ありうと思う」(39.7%)を合計すると77.9%となり、きわめて高い数値となっている。全国では「信じる」(16.8%)「ありうと思う」(36.6%)合計53.4%であるから、丹原町の数値の高さがわかるだろう。また、四国全体から見ても、「信じる」=20.0%、「ありうと思う」=40.0%、「信じない」=24.4%、「わからない」=15.6%となっていて、四国の中でも高い数値を示している。

ただ、靈魂の存在を信じるかどうかという問題は、高齢者ほど信じる割合が高いという訳ではない。前近代的な不合理な世界を否定し、高度成長の中で合理的な行動様式に慣れ親しんできた60歳以上の世代で、むしろ若い世代よりも「信じない」と回答した人が多く、それがそれを物語る(参考「平成15年全国調査」2-2を参照)。

SQ6-1 死後の靈魂はどこにいるか？

問6で「1.信じる」「2.信じるというほどではないが、ありうと思う」を選んだ方に】

SQ6-1.死後の靈魂はどこにいるとお考えですか。あてはまるもの全てに○をおつけ下さい。

- 1 お墓 2 仏壇 3 寺などの宗教施設 4 死亡場所
5 山 6 海の彼方 7 天国・極楽・浄土・地獄・黄泉の国
8 生者の心の中 9 その他()

参考 SQ6-1 死後の靈魂の居場所

死後の靈魂はどこにいるか	実数	構成比
墓	77	67.5
仏壇	43	37.7
寺などの宗教施設	2	1.8
死亡場所	2	1.8
天国・極楽・浄土	21	18.4
心の中	28	24.6
合計	173	151.8

丹原町では、死後の靈魂が「墓」にしていると回答した人67.5%であり、次に多かったのが「仏壇」=37.7%である(複数回答)。この結果も、全国調査と比較してみると、特徴のある結果になっている。全国調査では、「生者の心の中」=46.2%、「天国・極楽・浄土」=43.7%の回答が多く、お墓は第3番目の回答であったが、27.7%とそれほど高い数値を示していない。

全国的に見ても、死者の靈魂の居場所を「お墓」と回答する割合が高かったのは「東北」=40.0%と「九州」=40.8%であり、「四国」は24.0%に過ぎなかった。丹原町と同じ傾向を示したのが、新潟県岩船郡関川村である。関川村では「お墓」=79.4%「仏壇」=68.3%であり、「心の中」は15.9%に過ぎなかった。

Q6-2 死者の霊魂は、生者の生活に影響を及ぼすと考えますか、考えませんか。次のから1つお選びください。

- 1 大いに影響を及ぼす 2 時に応じて影響を及ぼす 3 影響を及ぼすことはない
4 わからない 5 その他（ ）

SQ6-2 死者の霊魂が生者の生活に影響を及ぼすか

	度数	有効パーセント
大いに影響を及ぼす	23	18.4
時に応じて及ぼす	46	36.8
及ぼすことはない	28	22.4
その他	19	15.2
わからない	1	.8
合計	117	100.0

死者の霊魂が生者の生活に影響を及ぼすかと質問については「大いに影響を及ぼす」=18.4%「時に応じて及ぼす」=36.8%、合計 55.2%となっている。また、「及ぼすことがない」=22.4%である。全国調査では、「大いに影響を及ぼす」=6.6%「時に応じて及ぼす」=47.0%、合計 53.6%であり、「及ぼすことはない」=21.2%であるから、「大いに影響を及ぼす」の数値に差異があるものの、全体的には全国平均の数値と大きな違いがないといってい良いだろう。

丹原町では、死後の霊魂の存在を7割以上の信じるけれども、その霊魂が生者に影響を及ぼすと考える人は半分強の人である。また、祖先の霊魂も墓地にいると考える人が多い。お墓と仏壇と仏壇を比較したとき、一般に仏壇が生活空間の中にあるので「拝む」程度は仏壇であると回答する人が多いが、しかし霊魂がどこにいるかという質問に関しては「お墓」であると回答するケースが多い。全国調査によると、「お墓」と「仏壇」の違いは10%前後というのが平均であるが、丹原町では30%程度の違いがある。

参考(平成15年全国調査)

参考 6-1 死後の霊魂の存在を信じますか

死後の霊魂	信じる	ありうる	信じない	わからない	無回答	計
実数	237	516	288	365	3	1409
構成比	16.8	36.6	20.4	25.9	0.2	100.0

参考 6-2-1 死後の霊魂はどこに

死後の霊魂 はどこに	墓	仏壇	寺などの 宗教施設	死亡場所	山	海の彼方
実数	206	147	27	62	8	9
構成比	27.4	19.5	3.6	8.2	1.1	1.2
天国・地獄極 楽・浄土等	生者の心	その他	無回答	計	-	-
325	344	46	9	1198	-	-
43.2	45.7	6.1	1.2	157.1	-	-

参考6-2-2 死後の靈魂を信じますか × 年齢 のクロス表

死後の靈魂を信じますか		信じる	ありうると思う	信じない	わからない	
20-29歳	実数	43	68	44	56	211
	構成比	20.4%	32.2%	20.9%	26.5%	100.0%
30-39歳	実数	40	78	41	81	240
	構成比	16.7%	32.5%	17.1%	33.8%	100.0%
40-49歳	実数	52	89	36	56	233
	構成比	22.3%	38.2%	15.5%	24.0%	100.0%
50-59歳	実数	43	102	69	75	289
	構成比	14.9%	35.3%	23.9%	26.0%	100.0%
60-69歳	実数	27	112	64	55	258
	構成比	10.5%	43.4%	24.8%	21.3%	100.0%
70歳以上	実数	32	67	34	42	175
	構成比	18.3%	38.3%	19.4%	24.0%	100.0%
合計	実数	237	516	288	365	1406
	構成比	16.9%	36.7%	20.5%	26.0%	100.0%

参考 6-3-1 死者の靈魂が生者の生活に影響を及ぼすか

	度数	有効パーセント
大いに影響を及ぼす	49	6.5
時に応じて及ぼす	349	46.3
及ぼすことはない	157	20.8
その他	4	0.5
わからない	183	24.3
無回答	11	1.5
合計	753	100.0

参考 6-3-2 靈魂の所在 × 地域クロス表

		墓	仏壇	寺	死亡場所	山	海	天国極楽	生者の心	その他	
北海道	実数	5	3	1	7	1	2	17	18	2	35
	構成比	14.3%	8.6%	29.0%	20.0%	2.9%	5.7%	48.6%	51.4%	5.7%	186.2%
東北	実数	26	16	5	5	1	1	26	30	4	65
	構成比	40.0%	24.6%	7.7%	77.0%	1.5%	1.5%	40.0%	46.2%	6.2%	244.7%
首都圏	実数	30	23	7	11	0	1	71	87	15	166
	構成比	18.1%	13.9%	4.2%	6.6%	0.0%	0.6%	42.8%	52.4%	9.0%	147.1%
関東	実数	19	10	4	8	2	0	39	33	5	72
	構成比	26.4%	13.9%	5.6%	11.1%	2.8%	0.0%	54.2%	45.6%	6.9%	166.5%
北陸	実数	10	7	2	2	1	1	23	14	3	37
	構成比	27.0%	18.9%	5.4%	5.4%	2.7%	2.7%	62.2%	37.8%	8.1%	170.2%
東山	実数	9	6	1	5	0	0	17	14	1	31
	構成比	29.0%	19.4%	3.2%	16.1%	0.0%	0.0%	54.8%	45.2%	3.2%	170.9%
名古屋圏	実数	9	10	1	3	0	0	12	16	0	31
	構成比	29.0%	6.8%	3.7%	4.8%	0.0%	0.0%	36.4%	48.5%	3.2%	132.4%
東海	実数	12	8	1	4	0	0	14	24	4	44
	構成比	27.3%	18.2%	2.3%	9.1%	0.0%	0.0%	31.8%	54.5%	9.1%	152.3%
大阪圏	実数	29	23	2	3	1	3	47	34	4	97
	構成比	29.9%	23.7%	2.1%	3.1%	1.0%	3.1%	48.5%	35.1%	41.0%	187.5%
近畿	実数	7	5	0	3	0	0	8	8	2	23
	構成比	30.4%	21.7%	0.0%	13.0%	0.0%	0.0%	34.8%	34.8%	8.7%	143.4%
中国	実数	14	8	1	2	0	1	16	18	3	38
	構成比	36.8%	21.1%	2.6%	5.3%	0.0%	2.6%	42.1%	47.4%	7.9%	165.8%
四国	実数	5	3	0	1	0	0	11	11	1	27
	構成比	24.0%	11.1%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	40.7%	40.7%	3.7%	121.8%
九州	実数	31	25	2	8	2	0	24	37	2	75
	構成比	40.8%	32.9%	2.6%	10.5%	2.6%	0.0%	31.6%	48.7%	2.6%	172.3%
合計	実数	206	147	27	62	8	9	325	344	46	744
	構成比	27.7%	19.8%	3.6%	8.3%	1.1%	1.2%	43.7%	46.2%	6.2%	157.8%

問7 アトツギがいなくなったお墓は改葬され、整理・統合されてしまうことがあります。これを一般に「無縁改葬」と呼んでいます。この手続きが平成11年5月に改正になり、簡素化されました、あなたはこの改正をご存知であったでしょうか。次の中から1つだけお選びください。

- 1 知っている 2 聞いたことがあるが、詳しくは知らない
3 知らない 4 その他（ ）

この質問は、平成11年5月に施行された無縁墳墓の改葬手続きの改正に対する周知度を尋ねたものである。「知っている」9.3%「聞いたことがある」34.4%、この合計値は43.7.3%である。全国調査では、「知っている」が4.5%であり、「聞いたことがある」が15.8%であったことを考えると、丹原町ではむんふんぼの改葬手続きの改正はかなり周知されていたことになる。

もっとも、全国調査でも高齢になるほどこの周知度の数字は上がっていく。60歳以上では「知っている」=7.4%「聞いたことがある」=23.4%、合計30.8%となる。

改正以前の無縁改葬についての日刊新聞による公告についての周知度が10%にも満たなかったことを考えると、平成11年の改正の周知度が20%に達したことは評価できるかも知れない。しかし、墓地行政の担当者や墓地の経営者はこの周知のためにより一層の努力が必要であろう。

Q7-1 無縁改葬手続き改正の簡素化の認知度

手続きの認知度	度数	パーセント
知っている	14	9.3
聞いたことがある	52	34.4
知らない	82	54.3
その他	1	.7
無回答	2	1.3
合計	151	100.0

(参考7-1) 無縁墳墓の改葬の手続きの簡素化(全国調査)

手続きの改正	実数	構成比(1)
知っている	64	4.5%
聞いたことがある	223	15.8%
知らない	1114	79.1%
その他	3	0.2%
無回答	5	0.4%
合計	1409	100.00

(参考7-2)無縁墳墓の簡素化の手続き(年齢別+男女別)

全国調査

無縁墳墓の改葬化の手続き	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	男・計	女・計
知っている	1.9%	2.9%	3.9%	4.2%	7.4%	4.8%	4.3%
聞いたことがあるが詳しく知らない	7.5%	8.3%	12.9%	19.0%	23.4%	16.0%	15.7%
知らない	90.1%	88.8%	83.3%	75.8%	68.3%	78.6%	79.5%
その他	0.5%	0.0%	0.0%	0.3%	0.2%	0.1%	0.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.7%	0.4%	0.3%

Q8-2 は、周知度を年齢別・男女別にまとめたものである。男女別では、その周知度に男女別の違いはそれほどないといって良いだろう。年齢別では、「知っている」「聞いたことがあるが詳しくは知らない」の合計値が、20歳代では9.4%であるのに対し、30歳代では10.2%、40歳代では16.8%、50代では23.2%、60歳代以上では30.8%であり、年齢に従ってその周知度は増していく。

問8 お墓にアトツギ（承継者）がいなくなったとき、無縁墳墓として一定の手続きを経て改葬されることになっていますが、このようなやり方が妥当だと思いますか。

1つだけお選びください。

- 1 現状のやり方で良い 2 無縁になった時は、やむを得ない
3 永代使用を許した墓は、無縁改葬すべきではない 4 その他（ ）

無縁墳墓を改葬するという制度が妥当であるかどうかを尋ねたものである。「現状のままでよい」=29.7%「やむを得ない」=50.3%、合計 72.1%の人々がこの改葬手続きを是認していることになる。

Q8 無縁改葬の手続き

	度数	パーセント	有効パーセント
現状のままでよい	43	28.5	29.7
無縁になった時はやむを得ない	76	50.3	52.4
永代使用を許した墓は無縁改葬すべきではない	21	13.9	14.5
その他	5	3.3	3.4
合計	150	99.3	100.0
無回答	6	4.0	
合計	151	100.0	

(参考8) どのようなときに無縁改葬されますか 全国調査

どのようなときに、無縁墳墓として改葬されますか	承継者がいなくなったとき		管理費を支払わなくなったとき		無縁と思われるお墓の前に立て札が一年間たてられ、最終的にそのお墓の縁故者がみつからないとき		永代使用权を取得すれば無縁改葬されることはない	
	実数	構成比(1)	実数	構成比(1)	実数	構成比(1)	実数	構成比(1)
そう思う	1017	72.2%	743	52.7%	801	56.8%	903	64.1%
そう思わない	367	26.0%	632	44.9%	561	39.8%	460	32.6%
無回答	25	1.8%	34	2.4%	47	3.3%	46	3.3%
合計	1409	100%	1409	100%	1409	100%	1409	100%

全国調査では、どのような時に無縁墳墓が改葬されるかを尋ねた。丹原町では、無縁墳墓の改葬手続きが妥当であるかどうかを尋ねたので、若干意味が異なってくる。

全国調査では「永代使用权付きの墓地を取得すれば、無縁改葬されることはない」という問いで「そう思う」「そう思わない」の2択で尋ねたものである。64.1%の方が無縁改葬は行われることはないと回答したが、現実には「永代使用权」を取得した墓地であっても承継者がいないと無縁墳墓として改葬される。しかし、「永代使用权」ということばが多くの人々に誤解を与えている。墓地使用权や無縁改葬についての知識が必ずしも墓地使用者に対して正確に伝わっている訳ではない。無縁改葬の仕組みについて国民=市民にもっと知らせる必要があるし、墓地経営者は墓地使用契約締結時にその契約内容やどのようなときに無縁改葬されるのかについて説明をして、墓地使用者に対して周知徹底する必要があるだろう。

問9 あなたは現在、お墓について何か問題をかかえていますか。次の中から該当するものを3つ以内でお選びください。

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. 自分の入るお墓がない | 2. 墓地や墓石の価格が高い |
| 3. お墓を受け継ぐ人がいない | 4. 今あるお墓に入りたくない |
| 5. 受け継いだ（予定も含む）お墓の管理に問題がある | |
| 6. 散骨について | 7. 具体的にはないが、漠然とした不安を感じている |
| 8. その他（ ） | |

この回答者数は 61 人、3つ以内の複数回答ではあったが一人が約 1.3 の回答を選択肢した。回答者の全体が 151 人から 61 人の引いた 90 人=59.7%が「私にとっての墓地問題はない」と回答したことになる。全国調査では 65.6%が「特にない」と回答していることから、「特にない」と回答したのはほぼ全国並みと言うことになる。

問題としてもっとも多かった回答は「墓地・墓石が高い」（49.2%）「漠然とした不安」（44.3%）「墓の承継」（18.0%）と続いている。一つ一つの数値は全国調査に比べて高いが、「墓地墓石が高い」「漠然とした不安」「承継したお墓の管理」という「問題」の順番は全国平均と同じである。

葬式・墓石・墓地等に対する経済的負担に対して多くの人が不満を持っていることは、あとの自由記載の内容からも窺えることである。

「漠然とした不安」というのも高い数値を示している。少子社会の中でのアトツギ問題が深刻化してくることを予想して、おそらくは自分が死んだあとに起こって来るであろう問題に「将来の不安」を感じているのであろう。

今回の調査の回答者は 70 歳以上が 7 割以上を占めている。回答者の子どもの数も 2 人から 4 人という数に集中している。アトツギ（承継者）問題が深刻化してくるのは回答者から見ればその孫の世代であろう。現在の家族の居住形態を見ても、「一人暮らし」と「夫婦だけ」と回答した人が 51.7%であり、親と子ども夫婦（＋孫も含めて）の 3 世代家族が占める割合は 34.5%となっている。「第 4 回世帯動態調査」（国立社会保障・人口問題研究所）との比較では、「一人暮らし」と「夫婦だけ」は全国の 39.2%に比べて高い割合を示し、またいわゆる 3 世代同居も 11.5%よりも高い数値になっている。

Q9 あなたにとっての墓地問題

墓地問題	実数	構成比
墓の有無	5	8.2
墓地・墓石が高い	30	49.2
承継者がいない	1	1.6
今ある墓に入りたくない	1	1.6
承継した墓の管理	11	18.0
散骨	6	9.8
漠然とした不安	27	44.3
合計	81	132.8

承継した墓の管理は、自分が親の世代から受け継いだお墓の管理のことである。多くの人がお墓の管理に頭を悩ますようになってきた。また、Q 1 において述べたように、丹原町では、配偶者の家の墓など複数の墓を引き継いでいるケースが他の地域に比べても多いように思われる。このことが「承継したお墓の管理」を選択する人が多かった一つの要因であるのかも知れない。

(参考9-1) あなたにとっての墓地問題 全国調査

墓地問題(複数回答)	実数	構成比(1)	構成比(2)
墓がない	171	12.1%	27.5%
墓地・墓石が高い	189	13.4%	30.5%
承継者がいない	51	3.6%	8.2%
今ある墓に入りたくない	45	3.2%	7.2%
承継した墓の管理	67	4.8%	10.8%
散 骨	39	2.8%	6.3%
漠然とした不安	164	11.6%	26.3%
そ の 他	15	1.1%	2.4%
特 に な い	924	65.6%	--
無 回 答	12	0.9%	--
合 計	1409(1677)	119.2%	119.2%

構成比(1)は、「無回答」を含めた構成比

構成比(2)は、「無回答」「特にない」を除いた構成比

Q1 は、複数回答であるの構成比は100.0%を超えることになる。

問10 あなたには、葬式や法事を依頼する、昔からつきあいのあるお寺がありますか、ありませんか。次の中から1つだけお選びください。

1 ある 2 昔はあったが今はない 3 ない

Q10 は、寺壇関係の維持について尋ねたものである。丹原町では実に 93.4%の人が昔からのお寺とのつきあいは「ある」と回答している。全国調査でも、もともと四国は他の地域に比べて、昔からつきあいのあるお寺がある=寺壇関係を維持している傾向は強い

昔からつきあいのある寺

(82.2%)。丹原町はそれを超えた高い数字である。

	度数	パーセント
ある	141	93.4
昔はあった	2	1.3
ない	6	4.0
無回答	2	1.3
合計	151	100.0

本調査の回答者のフェイスシートを見てみると、生まれ育った地域と現在の居住地との関連について、72.1%の人が同じ市町村で居住している。また他村から嫁入りなどで入ってきた人もいることを考慮し、同じ都道府県に居住していると回答した人(20.5%)を加えても、92.6%であるから、昔からここで居住している人はほぼ全員が寺壇関係を維持していることになるのだろう。

(参考10-1) 「昔からつきあいのある寺」×地域のクロス表 (無回答を除く) 全国調査

つきあいの ある寺	ある		昔はあった		ない	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
北海道	43	69.4%	1	1.6%	18	29.0%
東北	86	79.6%	6	5.6%	16	14.8%
首都圏	151	44.4%	21	6.2%	165	49.1%
関東	80	63.0%	2	1.6%	45	35.4%
北陸	44	68.8%	2	3.1%	18	28.1%
東山	36	72.0%	2	4.0%	12	24.0%
名古屋圏	40	74.1%	3	5.6%	11	20.4%
東海	60	73.2%	5	6.1%	17	20.7%
大阪圏	108	57.4%	7	3.7%	73	38.8%
近畿	39	78.0%	2	4.0%	9	18.0%
中国	59	77.6%	2	2.6%	15	19.7%
四国	37	82.2%	2	4.4%	6	13.3%
九州	97	61.0%	8	5.0%	54	34.0%
合計	880	62.8%	63	4.5%	459	32.7%

問11 あなたの家の墓地はどのように経営されていますか。1つだけに○をつけてください

- 1 ずっと昔から檀那寺が経営している墓地である 2 ムラの共同墓地である
 3 市町村等が経営する公営墓地である 4 屋敷内や畑の中であって、個人で経営している墓地である 5 戦後になってできた墓地で宗教法人あるいは財団法人が営んでいる墓地である 6 その他（ ） 7 まだ我が家の墓地はない

Q11 あなたの家の墓地の形態

墓地経営者	度数	有効パーセント
檀那寺(寺院墓地)	45	29.8
ムラの共同墓地	68	45.0
公営墓地	9	6.0
屋敷墓・個人墓地	20	13.2
事業型墓地	2	1.3
その他	1	.7
墓地がない	3	2.0
無回答	3	2.0
合計	151	100.0

Q11 は、自分が使用している墓地の形態を尋ねたものである。墓地の分類は、(1)個人墓地（一般的には屋敷や田畑の中であって、個人がその墓地を所有している形態、一般には「屋敷墓」と呼ばれる形態がこれにあたる）、(2)寺院墓地（お寺が伝統的に所有している墓地で、寺壇関係の中にある檀家にその使用を認めている墓地）、(3)ムラ墓地（伝統的なムラ=村落共同体がムラの住民=構成員にその使用を認めている墓地）、(4)事業型墓地（前後になって造成された墓地で、宗教法人・財団法人等の公益団体が経営する墓地）(5)公営墓地（市町村等の地方公共団体が経営する墓地）であり、(1)から(4)は一括して民営墓地と呼ばれることもある。

この調査では、「ムラ墓地」（ムラの共同墓）を利用している人がもっとも多く(45.0%)、檀那寺の寺院墓地(29.8%)、「屋敷墓・個人墓地」（13.2%）と続いている。丹原町における墓地の数は、「集落が管理する墓地」=40 カ所(66.3%)、「宗教法人が管理する墓地」=13 カ所(20.5%)、個人墓地=11 カ所(17.2%)と聞いているので、この墓地の割合は丹原町全体の傾向を表現していると言って良いだろう（私達の調査は個人を単位としてどのような形態の墓地の利用しているのかを尋ねたのに対し、墓地の種類を分類し数量化したものでは、当然その数値は異なってくる）。

このなかで興味深いのは、「個人墓地」が占める割合が 13.2%（墓地の数では 17.2%）であり、これも全国的な統計がある訳ではあるが、全国平均から見てもおそらくはきわめて高い数値を示していると思われる。

問12 あなたが利用している墓地のなかでお墓のアトツギ（承継者）がこの集落からいなくなったお墓がありますか。1つだけに○をつけてください

1 ある 2 ない 3 わからない

Q12は、あなたが利用している墓地で無縁になった墳墓があるかどうかを尋ねたものである。あると回答した人は64.9%であるが、個人墓地を利用している人が20人いることを考え合わせると、約4分の3近くの人が無縁墳墓があると回答したことになる。

この墳墓に関して全く管理していない回答した人は14.9%であり、承継者になった墳墓でも現状では管理されている姿が見えてくる。「アトツギ」が他に出て行った場合でもまだアトツギが健在である場合はアトツギが墓の管理のために帰省し（25.6%）、まだ親戚がムラに止まっている場合にはその親戚が管理をしている（33.0%）という姿も見えてく

Q12 承継者がいなくなった墓地

承継者がいなくなった墓地	度数	パーセント
ある	98	64.9
ない	30	19.9
わからない	21	13.9
無回答	2	1.3
合計	151	100.0

る。

また、別の人が管理したり、何となく全員で管理していると回答した人が17.0%いる。なお、伝統的な村落共同体の生活・行動様式が残っている様子も窺うことができる。

問12で「ある」と回答した方に対して】

SQ12-1 アトツギ（承継者）がいなくなったお墓を誰が管理していますか。1つだけに○をつけてください

1 この集落にはいないが、アトツギ（承継者）が別の場所に住んでいるので自分で管理している 2 アトツギ（承継者）がいなくなった家の親類が管理している
2 親類ではないが、別の人が管理している 4 なんとなく、この墓地の利用者全員が管理している 5 特に管理していない 6 その他

Q12-1 無縁墳墓の管理方法

無縁墳墓の管理方法	度数	構成比(1)	構成比(2)
集落にいないが、アトツギが管理	24	15.9	25.6
親類が管理	31	20.5	33.0
親類ではない別の人が管理	4	2.6	4.2
何となく全員が管理	12	7.9	12.8
特に管理していない	14	9.3	14.9
その他	9	6.0	9.6
小計	101	66.9	100.0
無回答	57	37.7	
合計	151	100.0	

問 13 お墓や家の承継、あるいはお寺について特にご意見があればお聞かせください

1-1-30 墓地の清掃・管理・先祖供養は子孫の義務、家の承継はまず長男、なければ次男以下、特にこだわりを持っていない、札所の住職の目が商売人になっているように思うが私のひがみか、お布施は個人の気持ちである。金額を指定すべきでない（住職も食っていないのであればならぬのでその辺を理解した上で、一般の人にわかりやすい説教を希望

1-1-29 宗教（お寺）によって葬儀供養などお布施などの差があまりに多く、経済宗教の感があるお寺があります。金額の大小、真のお寺とは言えません

1-1-10 ご先祖様が入り色なことをなさると思いませんが、私の心の中では懐かしき昔の家族と思います／無縁墓になる前にお寺にお願いをしてお祭りして欲しい、長い間はやむを得ないと思う

1-2-3 無縁仏 誰も管理する人がいないし部落も自分のお墓以外は掃除しない。また段の下で上からのゴミ捨て場になってしまう。私の墓の横なので私宅の墓は少ないけれど、私宅の墓の草は少ないけれど無縁墓の掃除はいつも時間がかかりたいへんです。

1-2-18 心の中では先祖を拝むが家の中では拝まない

1-3-23 墓参りをすると立派な墓や無縁仏があり、型も千差万別である。金のあるものは立派な墓を貧乏人は小さい墓を建て墓は思い思いのその家の考えで建てられている。これを規格統一してキリスト教のように墓の規模を統一すれば墓地も公園のように明るいところ、憩いの場となる。また、拝み石に「〇〇本家之墓」と刻めば「〇〇総本家之墓」というように本家争いをする言えも有り余り見よいものではない。墓地を親しく親しみのある場所として開発すべきである。

1-3-42 戒名料。お布施料が高すぎる。金取り主義の葬式仏教になっている。宗教の根源が問われる。

1-4-25,墓は建立したが生前墓でいまだ仏は入っていないので意見なし。寺については寺の運営と住職の私生活をはっきりさせ、寺の行事運営等について寄付を集めるときは目的内容と必要金額を明示すること。

1-4-22,年1回（8月4日）老人クラブが無縁墓地の清掃日を設けて草刈りなどを行っている。お寺も今後後継者の坊さんが少なくなっていくので檀家の人々が心配しないよう組織化を考えてほしい。

1-4-20,お墓を管理するためにお盆お正月彼岸に家族が来ている。昔の考え方先祖のはお墓にしか入れない、今の考え方自分の選んだお墓にいりたい、どちらの考え方が多くなっていますか。

1-4-13,寺は宗教の違いがあってもいい、でも檀家にあまり迷惑をかけない寺であってほしい。住職や和尚は金なくなった人、祖先を供養してくれるのに相応しい雰囲気、宗教改革実践（たとえば葬儀の謝礼などを含む）死なれた人を想起するのにそうしたい気分なる人に見てもらいたい（昇天された方を思い出す場合良かったことを思い出す）院号・居士など区別しないで俗名はいかがでしょうか

フェイス・シート

この調査は、平成 15 年 10 月から平成 16 年 2 月までに、愛媛県周桑郡丹原町で行ったものである。以下、被調査者の属性をまとめておこう。

F1 性別

	実数	構成比
無回答	10	6.6
男	65	43.0
女	76	50.3
合計	151	100.0

すでに述べたように、この調査は丹原町の老人会を通じて委託したものであり、被調査者の抽出が必ずしも科学的に行われたものではないが、65 歳以上の高齢者層が全体の〇〇%を占め、その高齢者層を中心とした意識のあり方について一定の方向性を読み取ることが可能であろう。

F2 年齢 5歳区分年齢

	実数	構成比
無回答	16	10.6
40-44歳	3	2.0
45-49歳	4	2.6
50-54歳	3	2.0
55-59歳	1	.7
60-64歳	10	6.6
65-69歳	6	4.0
70-74歳	34	22.5
75-79歳	43	28.5
80-84歳	25	16.6
85-89歳	6	4.0
合計	151	100.0

被調査者の年齢層としては、70 歳以上が 7 割以上を占めている。このことは、この調査データの内容を規定することになる。つまり、これまでの調査結果がしめすように、一般には 70 歳以上の高齢者層は、①比較的小どもの数も多いために実際上のアトツギ（祭祀承継者）の確保ができていないこと、②高齢になるに従い、自己が入るお墓をすでに確保しているケースが多いこと、③祖先を祭祀する意識が強いこと、をあげてことができる。調査データの分析にあつては、この点を考慮しなければならない。

F3 未婚／既婚

	実数	構成比
無回答	8	5.3
既婚（配偶者あり）	104	68.9
既婚（死別）	37	24.5
既婚（離婚）	1	.7
既婚（別居中）	1	.7
合計	151	100.0

回答者の中には未婚者はいなかった。65 歳以上の世代では、生涯独身率は 10%未満であるので、未婚者がいないことも頷けることである。ただ、全体的に高齢であるために配偶者と死別している人が 24.5%いた。

F4 家族構成

	実数	構成比
無回答	3	2.0
一人暮らし	25	16.6
夫婦だけ	53	35.1
夫婦と子どもだけ	18	11.9
親と子ども夫婦	11	7.3
親と子ども夫婦と孫	41	27.2
合計	151	100.0

家族構成では、「一人暮らし」「夫婦だけ」という人が半分を超えている。夫婦だけと回答した人は 35.1%であり、全回答者の 3 分の 1 強の人が一人暮らしをしていることになる。

F5 子どもの有無

	実数	構成比
無回答	2	1.3
いる	146	96.7
いない	3	2.0
合計	151	100.0

F6 兄弟姉妹の合計

兄弟姉妹の数	実数	構成比
無回答	5	3.3
1 人	9	6.0
2	12	7.9
3	24	15.9
4	16	10.6
5	31	20.5
6	30	19.9
7	12	7.9
8	6	4.0
9	4	2.6
10	2	1.3
合計	151	100.0

F5-2 子どもの数

子どもの数	実数	構成比
無回答	4	2.6
1 人	14	9.3
2	51	33.8
3	61	40.4
4	14	9.3
5	3	2.0
6	2	1.3
7	1	.7
合計	151	100.0

F7 現在の居住地と生まれ育った地域

	実数	構成比
無回答	1	.7
同じ市区町村で居住している	109	72.2
同じ都道府県で居住している	31	20.5
それ以外(異なる都道府県である)	10	6.6
合計	151	100.0

F8 居住地区を10年以上離れた経験

	実数	構成比
ある	26	17.2
ない	124	82.1
その他	1	.7
合計	151	100.0

F9 職業

	実数	構成比
無回答	8	5.3
農林漁業	43	28.5
農林漁業以外の自営業・家族従業	6	4.0
勤め人(専門職・技術職・管理職・教育職)	14	9.3
勤め人(事務職・販売・サービスなど)	2	1.3
勤め人(建設・工場・運転などの現場労働)	10	6.6
パート・アルバイト	4	2.6
専業主婦	24	15.9
無職	40	26.5
合計	151	100.0

F10 居住環境

	実数	構成比
無回答	13	8.6
持ち家(一戸建て)	135	89.4
持ち家(分譲マンション)	1	.7
民間賃貸(一戸建て)	1	.7
公団・公営住宅(県営・市営など)	1	.7
合計	151	100.0

(参考) 新潟県岩船郡関川村・お墓をめぐる意識調査

この調査は、1998年8月28日から9月31日まで新潟県岩船郡関川村で行った調査の一部である。この調査は、シオン短期大学（茨城キリスト教大学短期大学部）と明治大学の学生がこの地区の住民を訪問し、面接をして回答を得たものである。この調査の報告書は、森ゼミ「新潟県岩船郡関川村調査報告書」『創造』第28号[1999]としてすでに発表している。

Q1 あなたが入るお墓がありますか

		先祖伝来の 墓地	自分が取得 した墓地	墓地を捜し ている	墓地はない	その他	わからない	合計
桂	度数	18	1			1		20
	構成比	90.0%	5.0%			5.0%		100.0%
小見	度数	15	8	1	1			22
	構成比	60.0%	32.0%	4.0%	4.0%			100.0%
沢	度数	19	3					21
	構成比	86.4%	13.6%					100.0%
合計	度数	52	12	1	1	1		63
	構成比	77.6%	17.9%	1.5%	1.5%	1.5%		100.0%

Q2 お墓の承継者

	決まった人がいる		期待する人はいる		いない		承継者を希望しない		わからない	
	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比
桂	17	85.0%			2	10.0%			1	5.0%
小見	17	77.3%	3	13.6%			1	4.5%	1	4.5%
沢	20	95.2%							1	4.8%
合計	54	85.7%	3	4.8%	2	3.2%	1	1.6%	3	4.8%

Q2-SQ1 承継者の続柄

	配偶者		長男		長男以外の男子		長女		長女以外の女子		養子(婿養子)		無回答	
	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比
桂	2	10.0%	12	60.0%	1	5.0%			1	5.0%	1	5.0%	3	15.0%
小見	1	4.5%	12	54.5%	1	4.5%	4	18.2%			2	9.1%	2	9.1%
沢			15	71.4%	2	9.5%	1	4.8%			2	9.5%	1	4.8%
合計	3	4.8%	39	61.9%	4	6.3%	5	7.9%	1	1.6%	5	7.9%	6	9.5%

Q2-SQ2 承継者居住地

	同居		同じムラ		同じ行政村		新潟県		県外			
	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比
桂	10	50.0%					6	30.0%	1	5.0%	3	15.0%
小見	15	68.2%			1	4.5%	2	9.1%	2	9.1%	2	9.1%
沢	17	81.0%	1	4.8%			2	9.5%			1	4.8%
合計	42	66.7%	1	1.6%	1	1.6%	10	15.9%	3	4.8%	6	9.5%

Q3 墓参りの頻度

	ほぼ毎日		週に1～2回		月に1～2回		年に3～5回		年に1～2回		その他	
	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比
桂			1	5.0%	1	5.0%	17	85.0%	1	5.0%		
小見					1	4.5%	18	81.8%	2	9.1%	1	4.5%
沢	1	4.8%	2	9.5%	2	9.5%	10	47.6%	6	28.6%		
合計	1	1.6%	3	4.8%	4	6.3%	45	71.4%	9	14.3%	1	1.6%

Q4-1 母方の両親・祖父母

	含む		含まない		わからない	
	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比
桂	8	40.0%	9	45.0%	3	15.0%
小見	8	36.4%	13	59.1%	1	4.5%
沢	8	38.1%	8	38.1%	5	23.8%
合計	24	38.1%	30	47.6%	9	14.3%

Q4-2 自分の本家

	含む		含まない		わからない	
	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比
桂	8	40.0%	8	40.0%	4	20.0%
小見	9	40.9%	11	50.0%	2	9.1%
沢	12	57.1%	6	28.6%	3	14.3%
合計	29	46.0%	25	39.7%	9	14.3%

Q4-3 分家の先祖

	含む		含まない		わからない	
	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比
桂	8	40.0%	8	40.0%	4	20.0%
小見	7	31.8%	11	50.0%	4	18.2%
沢	6	28.6%	7	33.3%	8	38.1%
合計	21	33.3%	26	41.3%	16	25.4%

Q5 祖先の霊の居場所

		お墓	仏壇	屋敷のなか	海	山	心	その他	わからない
桂	度数	15	8	1			2		1
	構成比	75.0%	40.0%	5.0%			10.0%		5.0%
小見	度数	17	15	1			4	2	
	構成比	77.3%	68.2%	4.5%			18.2%	9.1%	
沢	度数	18	20				4	2	
	構成比	85.7%	95.2%				19.0%	9.5%	
合計	度数	50	43	2			10	4	1
	構成比	79.4%	68.3%	3.2%			15.9%	6.3%	1.6%

Q6 先祖祭祀・供養は子孫の義務か

	そう思う		どちらかといえばそう思う		思わない	
	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比
桂	17	85.0%	3	15.0%		
小見	19	86.4%	2	9.1%	1	4.5%
沢	20	95.2%	1	4.8%		
合計	56	88.9%	6	9.5%	1	1.6%

Q7 あなたにとっての墓地問題(複数回答)

		墓地不足	墓地の高騰	承継者がいないこと	誰と一緒に はいるか	散骨	その他	特にな
桂	度数			2		1		18
	構成比			10.0%		5.0%		90.0%
小見	度数	1		3	2	3		15
	構成比	4.8%		14.3%	9.5%	14.3%		71.4%
沢	度数	2	1	1	2	2		15
	構成比	9.5%	4.8%	4.8%	9.5%	9.5%		71.4%
合計	度数	3	1	6	4	6		48
	構成比	4.8%	1.6%	9.7%	6.5%	9.7%		77.4%

Q8 何軒で基地を利用していますか

	単独である		同族で利用		複数の家で利用		その他		無回答	
	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比
桂	11	55.0%	6	30.0%	3	15.0%				
小見	3	13.6%	1	4.5%	16	72.7%	2	9.1%		
沢	17	81.0%	2	9.5%	1	4.8%			1	4.8%
合計	31	49.2%	9	14.3%	20	31.7%	2	3.2%	1	1.6%

F1 性別

		男性		女性	
		度数	構成比	度数	構成比
地区	桂	4	20.0%	16	80.0%
	小見	11	50.0%	11	50.0%
	沢	11	52.4%	10	47.6%
合計		26	41.3%	37	58.7%

F2 年齢区分

	不明		30～34歳		40～44歳		45～49歳		50～54歳		55～59歳		60～64歳		65～69歳		70歳以上	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
桂	3	15.0%					2	10.0%					7	35.0%	1	5.0%	7	35.0%
小見			1	4.5%	1	4.5%	1	4.5%	3	13.6%	2	9.1%	2	9.1%	4	18.2%	8	36.4%
沢			2	9.5%	1	4.8%			5	23.8%	2	9.5%	1	4.8%	3	14.3%	7	33.3%
合計	3	4.8%	3	4.8%	2	3.2%	3	4.8%	8	12.7%	4	6.3%	10	15.9%	8	12.7%	22	34.9%

F3 既婚・未婚

		既婚		既婚・死別		未婚	
		度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比
地区	桂	15	75.0%	5	25.0%		
	小見	16	72.7%	6	27.3%		
	沢	18	85.7%	2	9.5%	1	4.8%
合計		49	77.8%	13	20.6%	1	1.6%

F4 世帯構成

	一人暮らし		夫婦だけ		親と子どもだけ		親と子ども夫婦		親と子ども夫婦と孫	
	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比
桂	2	10.0%	3	15.0%	3	15.0%	4	20.0%	8	40.0%
小見	1	4.5%	2	9.1%	6	27.3%	3	13.6%	10	45.5%
沢			2	9.5%	1	4.8%	2	9.5%	16	76.2%
合計	3	4.8%	7	11.1%	10	15.9%	9	14.3%	34	54.0%